

度し 「好き」の手まねと同じ。○本を見たい。本―見る―好き。

足し算 (イ) 合わせる(会合と同じ要領の手まね)―算術。(ロ) 左右両手の人差指を十字に組む(足算の記号)―算術

黄昏 夕方(掌を下向けて五指の指頭を右にさした左手を地平線として、右手の指頭を左にさした人差指と親指を曲げて半円を形どり太陽を表わし、左手の向う側に落して行く、即ち日没)―暗い(この手まねを軽く、うす暗い表情)

尋ねる 「訊く」と同じ。

戦う 闘う 「戦争」と同じ。

唯一つ 五指の指頭を前方にさし掌を右側にした左手に、右手人差指(一の数)の指頭をつけてから上へ弾ね上げる。「一つ」を強調したもの。

畳 掌を下に向けて拳にした左手を右胸脇

につけ、その手の上に拳にした右手の腕を立てた肘をのせ、右手に刀を入れて僅かに左右に動かす。畳屋が畳の縁を縫う身振り。

忽ち 「既に」の手まねと同じ要領で表わす。

立つ 上向けた左手の掌の上に、右手の人差指と中指の二指を指頭で直角に立てる。人の二本の脚で立つ姿。

達人 「女人」と同じ手まね。

脱走 右手掌で口を塞さぎ(黙って)次にを下に向け五指の指頭を右にさした左手の下掌を指頭を前方にさした右手の人差指をくぐらせて、前に出し右斜めに進ませる。

建物 五指の指頭を前方にさし、掌を左側にした右手、五指の指頭を前方にさし掌を右側にした左手。この両手を胸の前左右に平行に向い合わせて同時に上へまっすぐに上げて行き、適度なところで、停止させると同時に

両手の掌を下に向け、左右から相宿らしめて両手をつけ合わす。つまり両手で「」の線を描いたわけ。即ちビルの輪郭。

建てる 造る——建物。

妥当 「適する」と同じ手まね。

たとえ——でも 仮りに——しかし。

例えば 「仮りに」と同じ手まね。

頼む 右手拳で左手腕の上を叩たいて右手を開いて拜む。

煙草 人差指と中指で煙草を挟さんだ恰好

で口許に二指を持って行き吸う真似。

足袋 掌を上向けた左手の手の首のところ

で、右手で足袋のこはぜをかるけ真似。

旆 指頭を上にした人差指と中指の両手

を顔の左右から同時に前方へ小刻さみに進ませる。

度々 「屢々」と同じ手まね。

多分 (1)「多分にある」とか「多分に頂き

まして」の場合。「多く」「沢山」の手まね。
(2)「多分……でしょう」の場合。と「思う」の手まね。

狸 狸の腹鼓を表わす。即ち掌を内側にした両手で、交互に腹を叩たく身振り。

多忙 「忙しい」と同じ。

他人 掌を内側にして、五指の指頭を左に

さした右手を右頬に直角につけ、前へ弾ねるように離す。骨肉(頬)とは拘りがなくこと

脱線 五指の指頭前方にさし掌を右側にし

た左手の上(親指の背の上)に、これも五指の指頭前方にさし掌を左側にした右手を(小

指の背か下の左手の親指の背に)載せ、上の

右手を左手の上をまっすぐに這らせて行って

(軌道の上を車が這って行く)途中で、その

右手を左手から左の方へそらせ落す。即ち軌

道から外れたこと。「墮落」と云う意味にもなる。